

エコアクション21

環境活動レポート

2016. 5. 21~2017. 5. 20

2017年6月20日作成

株式会社 鹿 熊 組

目 次

1. 環境方針
2. 事業内容
 - 1) 事業所名及び代表者名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者及び担当者
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境目標
5. 環境活動の取組結果と評価
 - 1) 環境活動の取組結果
 - 2) 環境活動の取組結果の評価
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

1. 環境方針

【環境に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

【環境方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 事務用品のグリーン購入への取り組みを行います。
- ⑤ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑥ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

2011年4月20日

長野県長野市大字鶴賀緑町
1631番地3号

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 厚

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 厚

2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号
機材センター 長野県長野市真島町川合北宮島2036番地

3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	専務	鹿熊 聡
環境管理担当者	管理部	鹿熊 聡
	土木部	大谷章彦
	建築部	神田知徳
環境管理事務局		新井重隆
連絡先	TEL	026-235-3311
	FAX	026-235-3315
	HP	http://www.kakumagumi.com
	E-mail	info@kakumagumi.com

4) 事業内容

総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類

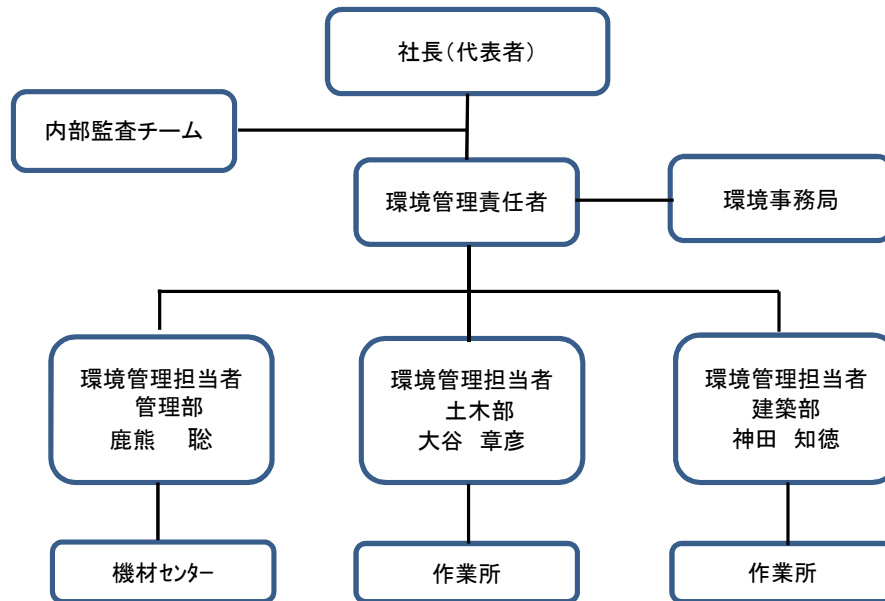
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、
内装仕上、水道施設工事業

5) 事業規模

売上高	55期	3,683百万円	(2013年6月1日~2014年5月31日)
	56期	3,599百万円	(2014年6月1日~2015年5月31日)
	57期	3,709百万円	(2015年6月1日~2016年5月31日)
	58期	3,494百万円	(2016年6月1日~2017年5月31日)

従業員数	85人
本社床面積	1132.1m ²
機材以外床面積	5963.6m ²

3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者・部門担当者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告・ 環境活動レポートの確認 環境事務局の設立、担当者の任命
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標・環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの計画・実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動の内部コミュニケーションの実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境目標

2015年(57期)の実績値を基準値とし、2016年以降の3年間の目標値、環境活動計画及び具体的施策を下表の通り策定した。

	目標値	活動計画・施策
省エネルギー化	電力の削減 基準年度実績 199,782 kWh 2015 103,487 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数; 0.518 2016 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 102,970 kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2017 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2018 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	1. 空調温度の適正化・熱の出入りの調整 2. 時間帯消灯・機器電源OFF(昼休憩・外出時等) 3. 時間帯消灯・機器電源OFF(休日・夜間) 4. 効率化による残業・休日出勤削減 5. 空間利用(在室人員のまとまり)の工夫 6. 省電設定、省電機器の導入の追加検討 7. 社内ルールの遵守(制限・約束) 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 前年検討事項の実施への取組 3. 社員行動の不良部の改善 4. 残業・休日出勤の削減 5. 更なる向上のための手順改善 6. 社内ルールの遵守
	燃料の削減 基準年度実績 2015 ガソリン 90,080 ℓ 軽油 118,593 ℓ 灯油 34,594 ℓ 年 595,440 Kg-CO2 2016 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 592,463 Kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2017 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2018 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(通勤・移動車両) 1. エコドライブの導入 2. 日常点検の励行 3. 相乗りの推進 4. 運行経路の適正化 5. 省エネ車両への交換 (重機械) 1. アイドリング時間の短縮 2. 休憩時間のエンジンストップ 3. 過剰負荷の軽減 (輸送) 1. 共積みの励行 2. 配送経路の適正化・集約化 (設備) 1. 定期点検の励行 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 重点事項の推進 (重点事項) ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進 ・関係会社の協力による適正機械の使用促進 ・作業手順の適正化による過剰負荷の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 ・省エネルギー型機器の導入の可能性の検討
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減 基準年度実績 2015 6,220 kg 2016 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 6,189 kg ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2017 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2018 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (減量) 1. ペーパーレス化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量 中期計画 1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進 (重点) ・不良者の発見と指導 ・周知・徹底 ・整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料) ・保管書類の削減(保管基準、保管方法)
	産業廃棄物の削減・リサイクル化 基準年度実績 2013 6,768.31 t 0.61% 2016 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 6,734.47 t ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2017 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2018 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上 中期計画 1. 前年手段の継続 (全般) 2. 分別ボックス・スペースの必要な改善 3. 周知・徹底のための再教育 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育
水資源使用量削減	水道水の削減 基準年度実績 2013 1,234.0 m ³ 2016 年度目標 基準年度比 98% 削減率 -2% 目標値 1,209.32 m ³ ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2017 年度目標 前年比-2.0% 96% 2018 年度目標 前年比-2.0% 94%	(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育 (作業所・機材) 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進 中期計画 1. 前年度の継続 (作業所) 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進
	事務用品のグリーン購入 2016 年度目標 購入品設定品目の維持 2017 年度目標 今年度実績により 設 2018 年度目標 定変更	1. 優先購入決定品の維持 2. 白色を落とした紙類の購入→減量へ移行 3. 優先購入対象品目の増加 中期計画 1. 前年手段の継続・改善

5. 環境活動の取組結果と評価

1) 環境活動の取組結果

(注意：58期目標及び実績は12ヶ月経過の2017年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	57期実績	58期目標	58期実績	対目標比率	評価
電力の削減	本社・機材	使用量	kwh	90,725	90,271	92,378	102.3%	×
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	46,996	46,761	47,852		
	作業所	使用量	kwh	109,057	108,512	118,514	109.2%	×
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	56,492	56,209	61,390		
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	103,487	102,970	109,242	106.1%	×

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：58期目標及び実績は12ヶ月経過の2017年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	57期実績	58期目標	58期実績	対目標比率	評価	
燃料の削減(1)	ガソリン	本社・機材	使用量	リットル	76,324	75,943	75,357	99.2%	○
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	177,199	176,313	174,954		
		作業所	使用量	リットル	13,755	13,686	10,382	75.9%	◎
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	31,935	31,775	24,102		
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	209,134	208,088	199,056	95.7%	◎	
	軽油	本社・機材	使用量	リットル	10,445	10,392	22,310	214.7%	×
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	27,410	27,273	58,549		
		作業所	使用量	リットル	108,148	107,608	113,644	105.6%	×
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	283,818	282,399	298,241		
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	311,229	309,672	356,790	115.2%	×	
	灯油	本社・機材	使用量	リットル	2,590	2,577	2,591	100.5%	△
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	6,454	6,422	6,457		
作業所		使用量	リットル	32,004	31,844	21,482	67.5%	◎	
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	79,752	79,353	53,531			
合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	86,206	85,775	59,988	69.9%	◎		
燃料の削減(2)	都市ガス	本社・機材	使用量	m ³	12,469	12,407	14,381	115.9%	×
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	26,290	26,159	30,321		

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：58期目標及び実績は12ヶ月経過の2017年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	57期実績	58期目標	58期実績	対目標比率	評価
CO ₂ 排出量の削減	本社・機材	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	284,349	282,927	318,133	112.4%	×
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	451,997	449,737	437,265	97.2%	◎
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	736,346	732,664	755,398	103.1%	×

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：58期目標及び実績は12ヶ月経過の2017年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	57期実績	58期目標	58期実績	対目標比率	評価
水使用量の削減	水道・下水	使用量	m ³	662	761	735	96.5%	◎
		使用量	m ³	712	448	919	205.2%	×
	合計	使用量	m ³	1,374	1,209	1,654	136.8%	×

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：58期目標及び実績は12ヶ月経過の2017年5月20日現在値)

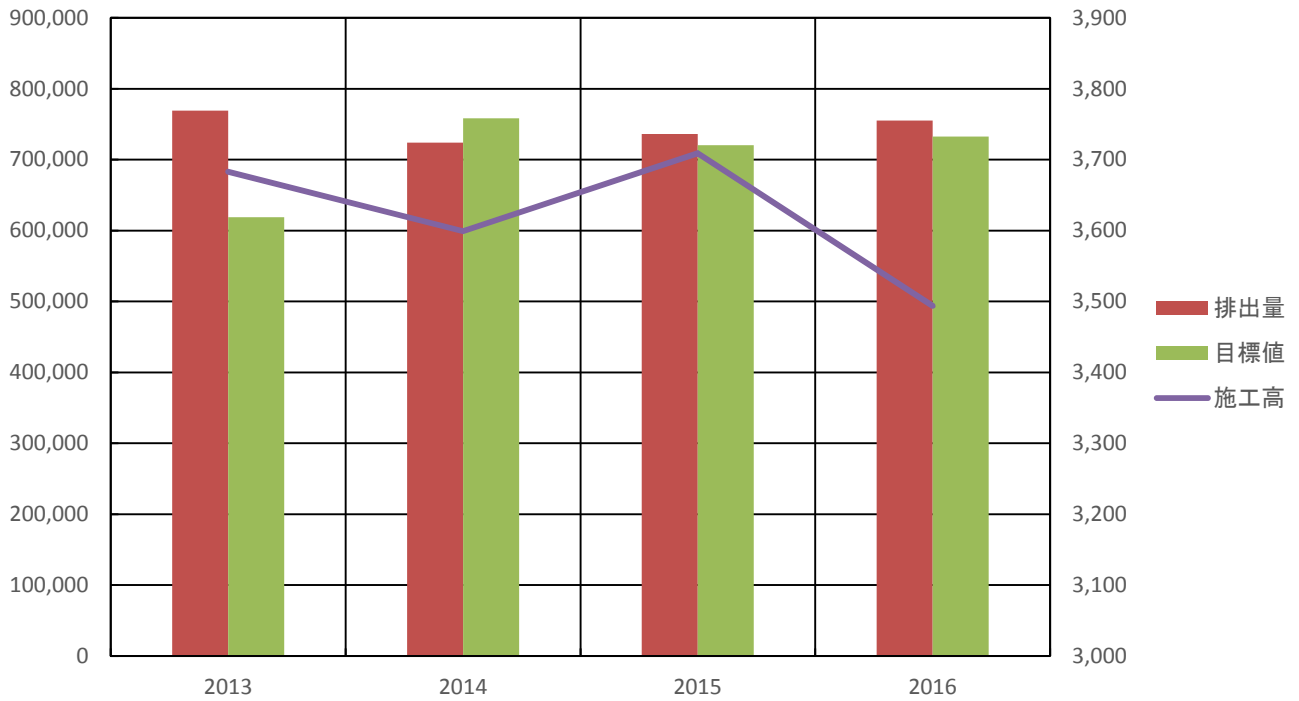
項目	区分	管理種別	単位	57期実績	58期目標	58期実績	対目標比率	評価	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	北用紙	使用量	kg	6,220	5,863	6,160	105.1%	×
		全体量	t	2,735	6,734	8,006	118.9%	×	
	産業廃棄物	再生不可率	%	1.93%	0.61%	0.33%	54.0%	◎	

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

CO2排出量の推移

年度	2013	2014	2015	2016	単位
排出量	769,007	724,007	736,346	755,398	kg-CO2
目標値	618,868	758,179	720,480	732,664	kg-CO2
施工高	3,683	3,599	3,709	3,494	百万円

二酸化炭素排出量



2) 環境活動の取組結果の評価

1. 省エネルギー化 (CO₂排出量の削減)

項目	区分	数値評価	活動評価
電力	本社・機材	目標値+2.3%=×	本社関係の使用量はほぼ前年並みで推移した。やや増加という結果であった。本社関係は施工高に影響を受けず、固定的利用となっている。また、省エネ機器への交換も完了している。超過勤務の影響も少なく、設備の変更もなく経済活動を維持しながらの省エネとしては限界的数値と考えられる。
	作業所	目標値+9.2%=×	現場関係で昨年を上回る使用があった。作業所では超過労働時間の短縮が当社の課題となっている。これに合わせた削減には期待が持てるが、効率化が伴わない交替制では効果はないと思われる。無駄の排除を意識し、働き方改革を進めることが重要であると考えられる。
ガソリン	本社・機材	目標値-0.8%=○	通勤車両のディーゼルエンジン車への移行があったことが主な要因であるが、エコ車両の導入とエコドライブの実施の効果も大きいと考える。 車両に関する燃料消費率は移動先が固定（経路が固定）の場合、ほぼ一定の数値を示している。したがって、燃料使用総量に関しては移動距離の長短で変動する傾向である。 このことはエコドライブへの取組や省エネ車両・機器の導入での効果は今後期待できないところまで来ていると考えられる。更なる高性能省エネ車両・機器の導入は非現実的であり、相乗り等による台数や総走行距離の削減にも疑問が残る。 顧客要望に対応しながら、施工高の平準化を目指すこと、集中を回避する段取りをかけること、十分な工期を確保すること等が、間接的ではあるが総走行距離の削減に大きな影響を与えている。
	作業所	目標値-24.1%=◎	作業工種が変化しているのであろう。これにより作業所専用車両が減ったことが要因と思われる。 車両についてはエコドライブに加え、軽車両等燃費率のよい車種の採用、作業所機器等についてはエコタイプ仕様の選択等による削減努力を継続していききたい。
軽油	本社・機材	目標値+114.7%=×	輸送作業が主な使用目的である。車両は変更していない。輸送分野においては現場への資材運搬時の相積みや、適切な運行経路の選定による削減ができていた。日々の点検整備、積載重量超過等に引き続き気を付け、削減努力を継続していく。 軽油仕様の通勤車両及び通勤兼用貨物車を増強したこと、長距離移動の作業所へ配置したことが増加の要因である。
	作業所	目標値+5.6%=×	請負工事の種類による変動と考える。建設重機・小機械等の稼働の増減が数値に現われている。 機械の省エネ化については、当社だけでなく下請け業者を含め、省エネ型の機械導入については今後に向けた課題である。暖気運転の時間短縮及びこまめなエンジンカット、使用者への教育等により削減努力、省エネ機器の導入・利用については協力を通じ、引き続きお願いしていく予定である。
灯油	本社・機材	目標値+0.5%=△	本社での使用量が若干増となっている。建築・土木の事務所稼働時間が主な原因と思われる。暖房目的が主な利用方法となるため寒冷気候の影響は大きいと思うが、工程を管理しながらの業務の効率化により、超過労働時間の短縮を目指すことが改善手法と思う。
	作業所	目標値-32.5%=◎	冬季のコンクリート等の冬期養生機器の使用が減少したことが要因と考えられる。受注内容により左右されることがあり、直面した時点で工夫を加え実施していくべきと思う。省エネ機器の採用についても引き続きの努力が必要である。
都市ガス	本社・機材	目標値+15.9%=×	冷暖房に使用している。未使用空間での冷暖房運転の削減等による改善が図られている。気候に左右された点が多いとは思いますが、設定温度の適正化や無駄な運転の削減を効率的に行う空間利用方法徹底を継続していききたい。 省エネ機器の導入・既存機器の整備点検についても順次進めている。
<p>まとめ</p> <p>CO₂の排出削減については結果として目標値+3.1%という結果であった。施工高が約-5.8%であったことからみれば不満足な結果となった。電力については、設備に関し新たな方策の必要性があり、超過労働時間の短縮などの業務スタイルの変更という新たな課題が明らかとなった。燃料関係については、受注工事の種類や天候、移動距離等によっても大きく影響を受ける分野であり、その対策としてエコ車両の充実と運転者教育等の必要性がより明確となった。都市ガス等の使用状況から設備の更新の必要性も感じている。 企業を発展させ、社員の生活を守り、そして社会へ貢献することが使命である。これには地球環境との共存が不可欠である。CO₂の排出量削減に関し、前向きに取り組み、努力を継続していききたい。</p>			

2. 廃棄物排出量の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
廃棄物	一般廃棄物	(コピー用紙購入量) 目標値+5.1%=×	本社での排出量が固定的とも考えられ、ペーパーレス化をより一層進める必要を感じる。判断材料となる紙の資料、報告や周知のための紙の資料(記録・文書)の扱いはハードや通信面とのすり合わせが必要であり、経費面や操作者の技量にも影響を受ける。ペーパーレス率の向上は引き続きの課題である。
	産業廃棄物	(産業廃棄物総量) 目標値+18.9%=×	排出総量は2月、3月の作業所の泥水処理に影響を受け排出量目標を上回っている。この件に関しては泥水が全処分量の31%に当たる2,457 t であり中間処分により処分が可能であり問題とは考えない。
	(全産業廃棄物中の混合廃棄物の割合)	目標値0.61%→結果0.33%=◎	産業廃棄物の総量が増加したことにより混合廃棄物量は幾分増加した。の割合が減少している。が増加している。各現場とも、減量に対し積極的に行っている状況は確認されているが、分別時に注視しにくい部分である可能性がある。分別時の作業者の工夫に頼る部分ともいえ分別に関する教育・訓練の見直しが必要であると考えられる。
<p>まとめ</p> <p>産業廃棄物の現状は変化していない。産業廃棄物について、総量を削減することは単品請負形態の当社では難しいものと思われるが、施工中の技術提案等により可能な限りの3R活動の推進を図り、最終処分量の削減努力は続けるべきと考える。また、確実な分別による混合型の廃棄物の削減についてもその努力を継続する予定です。</p>			

3. 水資源使用料の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
水資源	本社・機材	目標値-3.5%=◎	ほぼ固定化している施設での削減課題である。自然に削減がなされる状態を維持して欲しい。
	作業所	目標値+105.2%=×	散水による解体時養生とう削減が環境へ悪影響を及ぼす。工事用水は現場環境に合わせた適切な使用が求められる。節水への取組状況は良好である。現場事務所での使用量については、水道施設の有無により左右されることからはっきりとした評価はむずかしいところである。
<p>まとめ</p> <p>必要なものを無理にカットすることは逆効果となる。施工の現場では、無駄を排除する等、関係者全員が意識の高揚を図り、前向きに努力することを期待している。</p>			

4. グリーン購入

コピー用紙のグリーン購入化については経費の面で取り組みができない状態である。ペーパーレス化をさらに進め、使用量の削減についての努力は継続していきたい。使用量の多い紙類と共に、日頃から購入頻度の高い物品に関して、社内グリーン購入推奨品目と位置づけ、購入時には積極的に選択している。また、現場購入品についてもグリーン購入品目を優先できるものについては、積極的に選択して購入していくよう指導している。しかしながらこれには、経費も通常商品を購入するよりも、高いことが分かっており、当社としては全量を変更していくことには、経費的に不適と判断しており、根付かせることについては時間がかかる状態である。

新たな商品が開発され続けている。止むことのない探究心が必要なかもしれない。

5. 製品への環境配慮

公共工事を除く建設物の設計に際し、できるだけ環境配慮型建設材料、工法の提案を心掛けてきた。今期もその提案率は概ね50%程度は確保できていると思う。しかし、その採用実績は顧客の判断によるところが大きく、実績としてはない状態であった。

これについては、環境製品の割高感、顧客の価格重視とを、どの様にして環境と結びつけていくのかということでもある。今後についても課題として捉え、提案を継続するよう努力したい。

6. 環境活動

本社、機材、作業所周辺（特に歩行者通行帯、植樹帯、近接施設周辺）の清掃活動を上げ実施してきた。

本社、駐車場前及び両隣に関しては総務担当者は毎日実施し、社員に関しては本社への出入り時に「気が付いたごみは必ず拾い始末する」を基本とし実施してきた。この点は良くできてきていると評価している。

範囲を広げた周辺の一斉清掃については毎週実施としている。

作業所においては地域とのコミュニケーション、社会貢献として以前から実施してきた。工期や施工状況の厳しい作業所には負担となるが、気持ちよく作業を行い、竣工時に顧客、地元から感謝されていることから、この環境活動は継続する予定です。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニフェスト発行、管理 ・マニフェスト保管（5年間） ・産廃管理計画書・報告書の提出（毎年6月） 	遵守
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	<ul style="list-style-type: none"> ・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出 	遵守
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	<ul style="list-style-type: none"> ・規制適合車の使用 	遵守
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） 	遵守

2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等について、この5年発生していません。

7. 代表者の評価と見直し

当社がエコアクション21の環境活動への取組宣言を開始して6年が経過し、同認証を取得して3年となりました。

世界では地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進する点でまとまらない状況が生まれつつありますが、我々一人一人、地球環境の改善・維持に貢献する気持ちを忘れてはならないと思っています。

当社のエコアクション21の取組については、社員の意識・意欲が年々向上しており、ごく自然な形で環境活動を実施できている方も多く見受けられるようになってきました。このことは環境活動への取組が当たり前の事として各自に定着して来ていることの現われだと感じています。

企業は経済活動により自らを発展させ、社員の生活を守り、そして社会に貢献する義務があると思っています。この経済活動の結果、地球温暖化という問題が生じてきています。当社においても今期は下記の問題があり、これを解決していかなければならないと認識しています。

(58期の結果について)

CO2排出量は目標値に対し3.1%増加という結果となった。

電力関係：新たな設備の導入や新たな取組を行わないと削減が難しい状況となっている。

燃料関係：気候の影響や立地条件等の外的要因が影響する部分である。作業所が遠方である影響があり、削減には至らなかった。建物では断熱気密や省エネ設備、車両関係では省エネ車両等の導入には時間もかかる。計画的な取り組みが必要である。加えて社員全員が理解し工夫して取り組む積極性を維持して欲しい。

廃棄物関係：良い状況と思う。ペーパーレス化の推進、混合廃棄物の分別強化による更なる削減を今後も進めていく。

水資源関係：目標を達成することが出来ている。今後も施設の監視・点検を実施して無駄をなくすための努力をしていく。

全般的に削減に関し数値的には行き詰まり感が出てきていると思います。言い換えれば設備や機器の改善は大きく進展しており、人間の行動そのものの影響が大きな部分を占めている状態になりつつあることです。故に、社員全員の環境活動への意識をさらに高めるために常に声を出して呼びかけていきたいと考えます。

当社では経費的な問題もありますが設備・機器の改善は今後も継続していく予定です。地球環境の改善というエコアクション21への取組の考え方は社会貢献として企業の存在価値を高めることと期待できます。当社の経済活動に関係するすべての者が、エコアクション21の環境方針を理解し、その目標達成のため前向きな取り組みを継続されることをお願いします。

平成29年6月20日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊
